



ふれあい'なのかいち

七日市場かるた発表会(歴史の会共催)に参加して

文化部副部長 本島 美智子

三年前「七日市場の歴史を学ぶ会」の協力により勉強会から始めたカルタ作りが関係各所の皆様の賛同・協力を得、晴れてお披露目となりました。

投稿者さんの一句一句を象徴する物、歴史的遺物が句と写真と一体となり素晴らしい出来栄となりました。

改めて地域の事を知り勉強にもなりました。

今後「読み札」「絵札」のカードとなり「カルタ大会」も開催できるといいですね。



かるた発表会【2024年11月17日】



同時開催で「Cafe718」の皆様にも盛沢山の催し物を準備して頂きました。

「あずみ野太鼓保存会」の太鼓演奏、「土佐直伝英信流」松澤氏の居合演武、「七日市場コース」、映画上映等、皆様のご協力ありがとうございました。



七日市場コーラスの皆さん



あずみ野太鼓保存会の皆さん



松澤敏雄さん



「史跡巡りに参加して」

3・10 佐藤 貞雄

10月6日、七日市場公民館と歴史の会の共催による「大北地域の文化財をめぐる」研修の旅に参加させて頂きました。

本殿が国宝に指定されている仁科神明宮、山岳文化都市大町の中核的施設大町山岳博物館、神社の中に観音堂や三重塔を拝し神仏習合の面影を色濃く残した若一王子神社、仁科氏の祈願寺に由来する弾誓寺などを見学させていただき楽しくまた勉強になる有意義な1日を過ごさせて頂きました。

スタッフの皆様ご苦勞様でした。

☆弾誓寺ご住職講和の中の心に沁みた川柳

- ①「愛してる」爺の答えは「馬鹿言うな」
- ②挿し木して、花を見るまで生きてやる



史跡巡り【2024年10月6日】



市民運動会でコミュニティを活性化！

6・1 萩原 崇

初めて市民運動会に参加しましたが、想像以上に楽しかったです！

市民運動会は、地域住民が一体となり、年齢や性別を超えて交流できる貴重な機会です。運動を通じて身体を動かすだけでなく、協調性や連帯感を育み、地域への愛着を深めることができます。

私も、普段あまり交流のない近所の方と話すことで地域の一体感を感じることができ、最後まで楽しむことができました。これからもこのような機会を通じて、地域コミュニティがもっともっと活気づくことを願っています。



市民運動会【2024年10月20日】

人権学習会に参加して

副公民館長 望月 武志

今年の人権学習会も池田安宏さんより講演をいただきました。驚きがあったのは放送禁止歌があった事です。その根本には人権があり、人権とは「人が生まれながら持っている必要不可欠な様々な権利」「人が人として幸せに生きていくための権利」この権利は誰からも侵されることのない権利である。このことはあまり普段意識していませんが大事な事だと改めて思いました。また、部落差別がまだ解消されておらずネットで差別が拡散されている事も初めて知りました。

差別の無い社会を目指して努力していかなくてはと強く思いました。



人権学習会【2024年11月9日】

初めてのしめ縄講習会

1・11 丹羽 貴志

私はこの地域に引越してから約1年が経ちましたが、まだ地域の方々や文化に慣れない部分がありました。そこで、地域活動の一環として「しめ縄講習会」に参加することにしました。

講習会では、甕先生はじめ地元の方々親切に教えてくださり、しめ縄の種類や作り方について学び、実際に制作することが出来ました。

初めての参加で少し緊張しましたが、一緒にしました皆さんの優しさに助けられ、楽しい時間を過ごすことができました。企画された方、参加者の皆様、ありがとうございました。

是非、来年も参加したいと思います。



しめ縄講習会【2024年12月8日】

敬老祝賀会開催

みやび会 尾澤 修一

九月十六日、敬老の日、厳しい残暑にもかかわらず、満席に近い総勢三十六名の参加を得てみやび会敬老祝賀会が開催されました。会では、ダイヤモンド婚を迎えられた二組にお祝い状が贈られ、受賞者からは、みやび会での思い出一杯の謝辞。そして、ご来賓からは、仲良く健康で長生きを祈念するお言葉を戴きました。その後、七日市場コーラスの方々のリードで懐かしい歌の数々を大きな声で合唱、爽やかな気分が懇親会へ、歓談の時を過ぎました。最後に、次回も元気で集まる事を約束して万歳三唱。

素晴らしいひと時でした。



「七日市場の歴史（第六十一回）」 地区の話題

曾根原 孝和

青年会発足の前 この度、公民館西の
錢坂さんの家が整理されることになり、
明治40年青年会が発足する頃の文書を見
せていただきました。すると、青年会が
発足する前に、「祭典社」の組織がつくら
れ活動していたようです。

祭典社は明治32年にはでき、「祭典社
規則」によると、「本社は耕地の依頼を受
け祭典を執行するものとする」「社員は当
耕地内に住居を定め年齢15歳より26歳ま
でとする」など20条の規則をつくり運営
をしています。役員は、南部2人、北部
2人の社長を選んでいます。そして、明
治37年の会員数は38人です。

活動の変遷 明治35年度には、規則16
条「祭典に要する舞台、灯籠、幕、幟そ
の他一切の器具は、極めて鄭重に扱
う・・・」に添って、部長を2人選任しま
した。なお、37年から40年度は、庄野堰
の普請などにあたる「庄野堰普請請負管
理者」を2名選んで活動しています。
青年会の発足 一方、明治40年の「青
年会名簿」には一名（15歳）、41年にも

一名（15歳）が記名され、この二人は
「祭典社」名簿にも名前がみえ、他に
20代の名前もあります。このようなこ
とは以後も続いています。ですから、
初めは祭典社と青年会は混合していた
かと思われまふ。それは明治41年の決
議録に青年団の文字が見え、44年には
青年団印章を社長が預かるとの記事か
ら伺えます。さらに、大正2年に
「青年団旗を新調する」大正7年に
「明盛青年会に参加を決め、祭典社を
青年会に改称し規則を改正する」とあ
ります。そして、9年度から会長、幹
事、会計の役員が選任されています。
このことから、青年会は国や県の方針
に沿い、だんだんと組織化を進め活動
してきたと思われまふ。



編集後記

史跡巡りでは、生活部と歴史の会のみなさん
とで何十年ぶりのバス旅行。今まで知ろうと
もしなかつた興味深い歴史を知り感銘。久々の
市民運動会では激寒の中、体育部の皆さんと準
備、観戦。短時間ではあるものの昔の運動会を
思い出し。人権学習会では未だある同和問題、
放送禁止歌に愁い。かるた発表会では皆さんの
製作熱意に敬服。後はしめ縄作り。これらのイ
ベントを館報にどう載せたら皆さんに届くでし
よう。

編集委員の皆さん、ありがとうございます。
何より館報は区民皆さんの投稿、ご意見ご要望
できています。今後ともご協力お願い致しま
す。

主事 村上 和夫

七日市場地区公民館報 ふれあい なのかいち

Vol.23 No.3 第66号

【発行日】2025年2月8日

【発行所】七日市場地区公民館

【発行人】杉田 浩康

【編集人】望月 武志

【監修】村上 和夫

【編集委員】

井上 勝豊 (文化部)

渡邊 晃子 (体育部)

木船 章 (生活部)

花岡 正明 (ボランティア)

松尾 常德 (ボランティア)

寺沢 真弓 (ボランティア)

加藤 崇雄 (ボランティア)